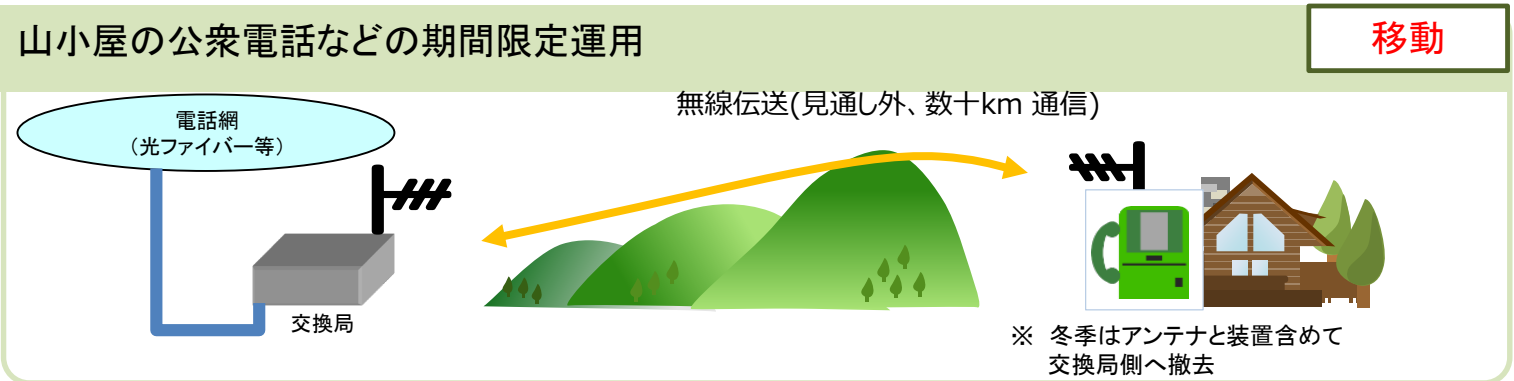
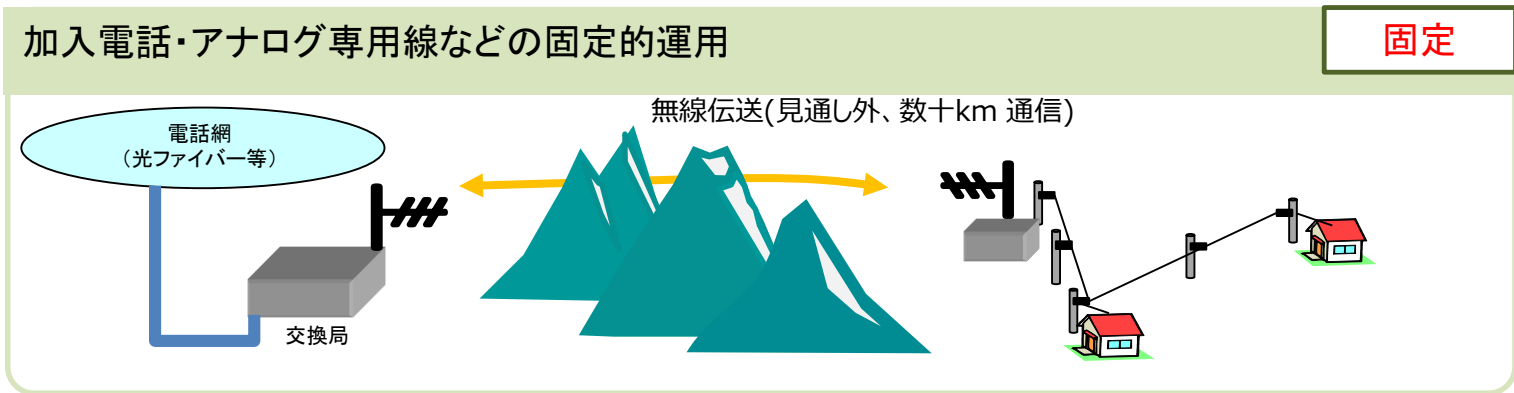


VHF帯加入者系無線システム(「現行システム」という。)は、有線設備敷設困難や携帯電話サービス提供エリア外となるようなルーラルエリア等において、加入電話サービス等の提供に有効活用されている。

現行システムは60MHz帯においてアナログ方式を採用しているため、今後効率的な周波数利用の観点からデジタル化などシステムの高度化が望まれている。

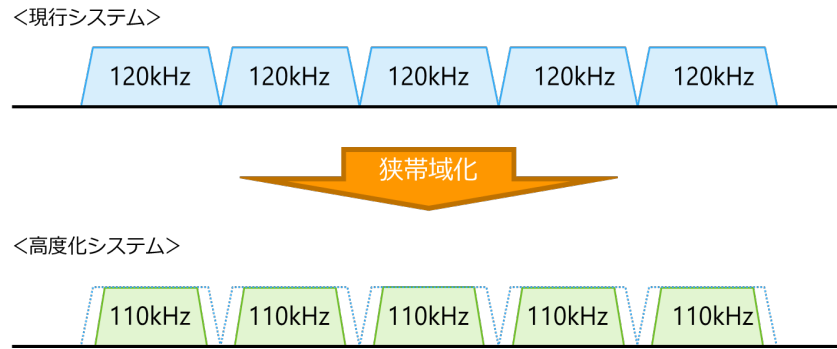
高度化する本システムは、現行システムと同様に加入電話・アナログ専用線などの「固定」を基本に山小屋の公衆電話などの「移動」としても運用することを踏まえ、デジタル化等の高度化に必要な技術的条件について、本年3月に情報通信審議会から一部答申を受けた。今般、これを踏まえ、本制度整備を行うもの。



VHF帯加入者系無線システムの高度化への対応

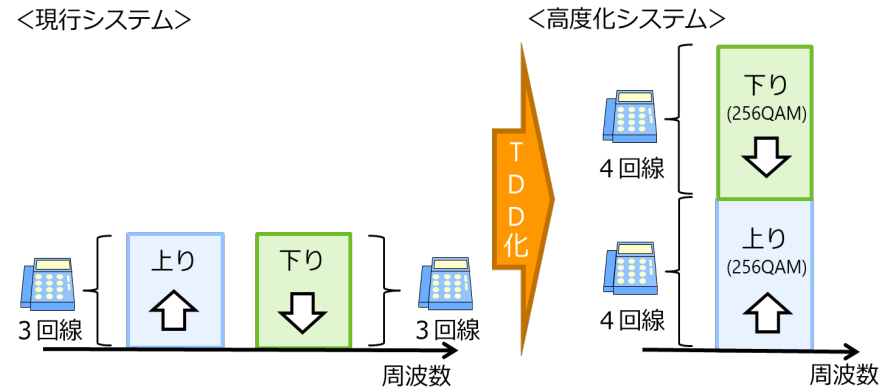
<1. 狭帯域化技術>

帯域外漏えい電力を抑制する狭帯域化技術
歪補償により、隣接チャンネルにおいて256QAMに必要なS/Nを確保することによって、占有周波数帯幅を広げることなく、所要電話回線の伝送を実現



<2. 時分割複信方式>

周波数分割複信方式(FDD)から、周波数利用効率向上のため、時分割複信方式(TDD)を採用



<3. 適応変調技術>

電波の伝搬環境の状態変動を吸収して通信品質を確保するための、変調多値数を自動的に変更する適応変調技術

